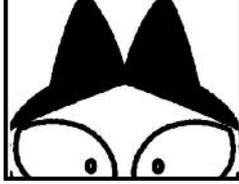


作品名	作家名	感想	評価
早春その他	藤沢周平 文藝春秋社	前号でうさおが☆六つ評価をしてるのでそんなに面白いのかなーと思って。読んでみたら、まあ普通だった。うさおは藤沢マニアだからね。ちょっと評価はおまけかな(^^)時代物って女性作家のほうが面白い気がする。でも藤沢周平本人の生き方は、たそがれ清兵衛風で惹かれます。	☆☆☆★
深い河 (ディー プ・リバー)	遠藤周作 講談社文庫	「必ず生まれ変わるから」と言って亡くなった妻の言葉。転生を信じて磯部はインドへと旅に出る。妻の病院のボランティアだった美津子、動物の愛を拠所に生きてきた童話作家沼田、ビルマでの悲惨な戦争体験を持つ木口。ツアーには様々な事情を抱えた者たちが集まってくる。そしてインドには神父になりそこねガンジス河の火葬場に辿り着いた男、大津がいた。	☆☆☆☆ ラストが唐突で驚いた。もっと続きが読みたい。
メメント・モリ	藤原新也 情報センター 出版局	写真詩集。ガンジス河の火葬場ヴァーラナシの写真は撮ってはいけないそうだ。じゃあここに出ている写真はどこなんだろう? 「ニンゲンは犬に食われるほど自由だ」と死体の写真の横に言葉が書いてある。う〜ん、ちょっときついかも。前に見たときはあまり感じなかったんだけど、なんか今はこういうのじゃない方がいい。	評価なし。
都市の記憶	横浜市歴史的 資産調査会	近代建築・西洋館・社寺建築・和風建築・古民家・土木遺産に別れ、それぞれ所在地・建築年代・設計・文化財指定などがコンパクトにまとめられている。土木遺産が雰囲気あるな。買おうと思って問い合わせたらもう在庫はないんだって。でも土木遺産の特集だけは最後の1冊が残ってるそう。お導きかしら? 買ってくるぞ。	☆☆☆☆☆

<p>あなたが選んだ 日本の灯台 50 選</p>	<p>燈光会</p>	<p>神奈川県では観音崎灯台が 50 選に入っています。グリコちゃんのお供で、この地を訪ねたときに買ってきた本。グリコちゃんは「灯台 100 選」を持ってます。けちけちしないでわたしもそっちを買えばよかった。再読ってゆーか折に触れて見てます。</p>	<p>☆☆☆☆☆</p>
<p>広告批評</p>	<p>雑誌</p>	<p>2003 年 9 月号をインターネットのイーエスブックで取り寄せました。最寄のセブンイレブンに届けてくれて配送料無料は超便利。「ラーメンズ特集」。なかなか写真などは手に入りにくい二人組。DGのラーメンズの写真はこの本からいただきました。雑誌だけど読み応え十分。</p>	<p>☆☆☆☆☆</p>
<p>小林賢太郎 戯曲集</p>	<p>小林賢太郎 幻冬社</p>	<p>第5回公演「home」第6回公演「FLAT」第7回公演「news」収録。4文字英語タイトルシリーズ。この本の帯の謳い文句を書いときます。わたしが書くより格段に的確。～一度観たら必ずハマる、鋭敏な言葉、独特なリズム、予測不能な世界。どこにもない新しい「笑い」を緻密に構築する～ うん、その通り。ラーメンズ好きだから戯曲だって読めちゃいます！</p>	<p>でもって、 ラーメンズ好きだから もちろん ☆☆☆☆☆</p>
<p>Hana－Usagi (鼻兎) ①～②</p>	<p>Kobayashi Kentaroh 講談社</p>	<p>ヤングマガジンアッパーズ連載の小林賢太郎の漫画。鼻の高いウサギとけっこうシリアスな過去を持つ猫ニニコ、のんびりおおらかあるがままの犬イヌの(たぶん)仲良し三人組のお話。ウサギは小林賢太郎、イヌは片桐仁、じゃあニニコは誰だ？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="687 1648 922 1984" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Hana-Usagi</b> Kobayashi Kentaroh <small>Cette bande dessinée est l'œuvre d'un auteur d'animation.</small> Un lapin bizarre et ce qu'il se passe autour de lui</p>  <p>01</p> </div> <div data-bbox="975 1648 1214 1984" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Hana-Usagi</b> Kobayashi Kentaroh <small>Cette bande dessinée est l'œuvre d'un auteur d'animation.</small> Un lapin bizarre et ce qu'il se passe autour de lui</p>  <p>02</p> </div> </div>	<p>大判振舞い ☆☆☆☆☆</p>

凍える牙	乃南アサ 新潮文庫	とにかくなんたってオオカミ犬疾風（はやて）がいい。女刑事を主役に置いて、警察という男社会の体質も描いているが、なんだか男の人が書いた女刑事のようであり共感できない。連続殺人も解明される動機に物足りなさを感じる。でもそれら全てがどうしてもよくなるくらい疾風がいい。話すことのできない動物は、なぜあんなに真剣な目で人間をみつめるのか。深夜の封鎖した高速道路の追跡。知らされる疾風の最後。人間が失くしたものを確実に動物は持っているんだと思う。どこにでもある抽象的なタイトルが気に入らない。もっとオオカミ犬を喚起させるようなタイトルがいいよ。	疾風の凛々しさに ☆☆☆☆
窓	乃南アサ	主人公は聴覚障害を持つ女子高生。ちょっと青春仕立てでミステリーは味付け程度かと思ってた。ところが大詰めになって殺人事件が起き、なんとも嫌な殺され方をするわけ。嫌な思いするために本読んでる訳じゃなし。すぱっとやめました。	意外などんでん返しがあるんなら教えてね。 ☆
鶴見の坂道	鶴見歴史の会	いつも歩いている坂道にもちゃんと名前がついている。名前を知るとより親しみも湧きます。なにしろ地元面白い！トマソン隊でもいざれご近所の坂道を取り上げる予定だってさ。	☆☆☆☆
棄景・棄景Ⅱ	丸田祥三 洋泉社	丸田さんの写真を表紙に使おうかなと思って図書館で予約して借りてきました。結局なるべく自家製で行こうってことで使うのはやめました。この人ってつげ義春とイメージがだぶる。暗くわびしく自虐的だ。好き^^。	☆☆☆☆ 何回も読んでます。買ってでもいいんだけど。
新世紀エヴァンゲリオン ①～⑧巻 漫画	貞本義行 角川書店	アニメはDVDボックスを息子が持っているんで二度くらい見た。カラオケじゃないけど、やっぱり活字の方が頭に入る。何故だかわからないが漫画は二年に1冊なんて年もあってなかなか話が進まず、まだ話は途中です。今回の企画に合わせて再読。面白いっす。	☆☆☆☆